

宇陀市学校規模適正化検討委員会第1回中間報告会 記録

令和2年8月29日(土) 14:00~15:30

宇陀市総合体育館 小体育館

出席者

【一般参加者】6名【宇陀市学校規模適正化検討委員】3名【宇陀市教育委員】4名

【宇陀市教育委員会事務局】8名 計21名

委員A	近年増加している不登校の原因は何なのか。
事務局	不登校は、心理的な問題、友達関係、学力不振、家庭の問題、発達障害など様々な要因が絡み合っていることが多く、特定できないケースが多い。各学校ではカウンセリング等を通じて原因の把握に努め、家庭や関係機関と連携して個に応じた指導を行っているが、不登校の原因を特定して数字で示すことは難しい。
委員A	中学校の方が数が多いのが気になる。
事務局	いじめの認知の数についても、学校はいじめはあって当然という認識の下、積極的認知に努めていただいている結果だと捉えている。この数字の中には「嫌なことを言われる」などの数も含まれており、中学生にもなると、嫌なことを言われても、自分の中で解決できることが多く、それをいじめと感じないが、小学校低学年などでは正直に回答しているものと考えられる。また、この数字は、1,000人当たりの認知件数なので、10人に1人くらいは「嫌なことを言われる」と答えてもおかしくないのではないか。数字の多い少ないに一喜一憂するのではなく、積極的認知に努め、その後のケアを適切に行うことを我々は大切にしている。
参加者A	このアンケートに答えた保護者の一人である。自分がよく読んでなかったこともあるが、このような報告の中に落とし込まれるとは考えていなかった。自分の子どもの様子や自身の学生時代の楽しかった経験から現状が適切として回答したが、本来、宇陀市としては、アンケート結果に沿うように合併するものではなく、市の教育理念に基づいて合併するものではないのか。
局長	昨年11月に行ったこのアンケート調査は、本市の学校規模適正化の基礎資料として、保護者、教職員に協力いただいたものである。本市としては、本調査結果等を基に学校規模の適正化について検討している。
事務局	今回の調査結果からも、どの学校の保護者も現状にある程度満足している傾向にあることは見て取れる。市の教育理念として、これからの子どもに付けたい力の一つに、社会性や協調性、コミュニケーション能力が挙げられるが、今回の保護者アンケートの結果からも分かるように、このことは多くの保護者が求めていることでもある。市の学校の現状として、コミュニケーション能力を育成する環境として不足はないかもしれないが、10年、20年後のことを考えると、複式学級が存在する可能性がある。我々は複式学級がだめだとは考えていないが、現在、県内で複式学級があるのは、統廃合の結果、1小学校、1中学校しか残っていない山間部の自治体であり、そのようなことも踏まえ、長い目で見て適切な学校とはどのようなものか、市民の皆様と共に考えていきたい。
参加者A	榛原小学校では、取り出し授業(特別支援学級)の子どもが増え、それに伴い先生の数も増えてきているが、合併してもそのような環境は保障されるのか。
事務局	特別な支援が必要とされると判断された子どもに対しては、国の基準により必要な教員が配置されるよう定められているので心配はない。
参加者A	高学年になると、通常学級との合同授業になる場合が多いと考えるが、先生の負担は増えないのか。
事務局	宇陀市では、特別支援教育指導員や通級指導の教員の配置について充実を図っており、合併とは別の問題として、今後ともニーズに応じた教員の配置に努め

	たいと考えている。
委員 B	<p>適正規模を検討するに当たり、学級編成が目的だとは思いますが、皆さんの思いとしては、宇陀市に多くの家族がやって来て、子どもたちがのびのび学力や体力等を伸ばすことができるといった理想をもっていると思う。委員は教育の専門家が多く、人口減少を前提として、その中でいかに効果的な教育を進めるかを議論しているように見えるが、市の人口増加対策を行う部局と連携して検討していかないと良い結果は出ないと思う。宇陀市と同じような課題を抱える自治体が多い中、滋賀県草津市や京都府長岡京市のように人口増と結びついた成功例もある。他府県からも情報収集するなど、大きな視点で取り組むことで我々が理想とする姿が実現すると感じた。我々は宇陀市を良くしたいと思っているので、今後とも、定期的にこのような会合をもったり、ホームページにアップしたりすることで、課題意識を共有することができると思った。</p> <p>また、個に応じた指導とあったが、今でも十分にしてもらっていると感じているが、例えば、不登校のいない魅力ある教育として、友達と顔を合わせにくい子どもに対して、ICTの活用や時差登校ができるようにするなど、レベルに応じたクラス分けをすることで学力の向上が期待できると思った。</p> <p>子どもの数だけでなく、教育の質をどう高めていくか、新しい組織を作って多面的に考えていけばよいと考える。</p>
委員 A	<p>加えて、我々が暮らしていく上で、地域コミュニティは大切。地域には地域の産業があって宇陀市が成り立っている。先ほどにもあったように、人数だけでなく、環境のよさなど地域のよさを伝え人口増を図る取組と総合的に考えていくことが大切。</p>
司会	<p>新しい視点での意見をいただいたので、持ち帰って、次の検討事項とさせていただきます。</p>
参加者 B	<p>私の子どもの校区は1学級しかないので、アンケートも1学級がいいという答えが多かったと思うが、「あの子が発表しているから自分は発表しなくていいだろう」というように次第に人間関係が固定化してしまったようにも思う。1学級30名以内というのは理想かも知れないが、子どもが少ないというのはメリットもあるがデメリットも大きい。また、中学校の部活動が成り立たなくなっている現状もある。3年生が引退したら野球部員は1人だし、男子バスケット部に女子バスケット部が入れてもらっていて、試合にも出ることができない状況を見ると、私としては合併して大人数の中で子どもの選択肢を増やしてほしい。</p>
事務局	<p>私も県のへき地教育に長く携わった中で、9年間固定化された人間関係がうまくいけばいいが、そうでなかった場合、高校進学時にやっと解放されたというような話を聞くと、少人数学級のメリットとともにデメリットも感じることもある。</p> <p>県内では、統廃合を繰り返し、小中各1校ずつとなった村もあるが、そのデメリットを解消するためにICTを活用して合同授業を行っている例もある。(VTR視聴)一昨日の新聞に掲載されていたが、人口減少のジェットコースターの先頭はへき地の村であるが、最後尾は東京都もつながっているという現状にある。そういったことも踏まえて皆さんのご意見をいただきたい。</p>
参加者 C	<p>適正な規模についてはこれからの課題だと考えているが、最後の通学バスの資料から考えると、結局、宇陀市の校区を1つにしようという考えなのか。今の交通事情からすれば可能だと思うが、部活動のことを考えると、6時過ぎの活動終了後、例えば、福地から田口まで通学バスを出せる体制が取れるのかということ</p>

	<p>ころまで考えないと、学校の規模だけで考えるのは難しい。</p> <p>また、中学校でいうと現在4校あるが、学校を少なくすることばかり考えずに、各校がどんなよさをもっていて、それを伸ばすためにどうしていくのかといった、今ある学校をどう充実させるかということも大切な視点だと思う。今、住んでいる人たちが、その学校に子どもを通わせたいというのであれば、それが適正な学校配置なのではないか。地元の学校に通わない子どもが増えている現実を考えると、今ある学校の充実も考えていただきたい。</p> <p>加えて、本日の内容を振り返るためにも、これだけの数の参加者なのだから資料の充実もお願いしたい。</p>
司会	冒頭にも説明したとおり、Webページ等で市民に一斉に周知を図りたいと考えており、準備中であることをご了承願いたい。
委員C	<p>コロナ禍で3ヶ月も学校が臨時休業になったのは初めてのことである。子どもは、1日休むと3日ほど学校に行きたくなくなる。3日休むと1週間、1週間休むと1ヶ月休むとよく言われる。今回の臨時休業を経て、不登校等で昨年との状況と変わっていないか。毎月、県に報告していると思うので、そういった情報も提供いただきたい。</p> <p>また、コロナでは天理大の差別事象があったが、いろんな場面で大人の影響を受けている子どもがいることが予想され、もし、学校に行きにくい子どもがいるのであれば、先ほどもあったように、効率だけで適正化を考えるのではなく、そういった子どものニーズに応じた特色のある学校づくりを考えてもよいのではないかと。特別支援教育の充実など、宇陀市が積み重ねてきた他都市より優れた部分を適正化の中でも取り入れていただければと思う。</p>
司会	コロナ明けにストレスチェックをしたものを比較して示したいと考えている。
参加者D	適正化の中で語ることでないかもしれないが、私の息子は1年ほど学校に行っていない。先生に叱責されたことがきっかけだが、他にも色々なことがあるのだろうと思い、色々と葛藤しながらここまでやってきた。ただ、私が一番苦しかった時に学校に助けてもらったという記憶がない。宇陀市として不登校の子どもをこのように支援していこうというビジョンが見えず、先生からも登校刺激しかできないと言われた。スクールカウンセラーを紹介してもらったが、月に1回程度しか聞いてもらえず、不登校の子どもを支援してもらえる環境ではないと感じている。私は一番苦しいとき、葛城市の心理士に相談していた。学校へ行けない子どもが増えているが、人数だけでなく、子どもが安心して自分の思いを表現できる学校づくりにも取り組んでいただきたい。
司会	<p>もう一度、足下をしっかりと見つめ直していきたい。</p> <p>時間になったので、意見を頂けなかった方については、受付で配布した感想用紙に記入いただけると幸いです。</p>
以下、感想用紙記述内容	
参加者E	大阪市から越してきた。小1の子がいる。今後の宇陀市の教育がどのような方向に向かっているのか興味があり、参加した。感想としては、国から言われたから考えているという印象を受ける。また、今後も参加していきたい。
参加者F	2015年の文科省の適正化に対する方向性や実態調査の結果が、今回の保護者や教職員のアンケート結果とほぼ重なるようなものだったのか。もし、重ならない部分があるとしたら、そこが宇陀市の特徴であり、思いであるとする。宇陀市発足時は統合ありきで進んでいたように思えたが、今回この会に参加させていただき、より良き教育や宇陀というまちづくりを土台に考えていこうということが感じられ、嬉しく思った。

<p>参加者 B</p>	<p>今回、色々な意見が出されたが、ぜひその意見を生かして話を進めてほしい。本日、菟田野中学校の部活動について話させていただいたが、3年生が卒部してから部員が減り、部活動ができない状況。野球部1名、女子バレーボール部2名、男子バレーボール部24名である。バスケットボール部は21名だが、男子の部が母体なので、女子の7名は試合に出ることができない。子どもたちは頑張っているのに試合も出ることができないのは可哀想なので、今後少子化が予想されるならば、もう少し真剣に検討をお願いしたい。また、不登校の件で、現在高1の卒業生が中学の3年間不登校だった。しかし、先生方は、その子を見捨てることなく、何度も足を運んで連絡をした結果、時差登校で学校に来ることができるようになった。今のよいところを絶やすことなく適正化していただければと思う。</p>
<p>委員C</p>	<p>アンケート結果については、昨年のものかと思う。現在のコロナ禍では、学力、問題行動に新たな傾向が表れているのではないかと。一斉休校により、学力差、不登校などの問題が出ているのではないかと。もしそうだとするならば、適正化を進める場合、効率だけでなく、子どものニーズに合った計画を進めていただきたい。</p>
<p>参加者 G</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明はよく分かり、聞きやすかったが、手元に資料が欲しかった。 ・小学校と中学校、就学前と分けて考えた方がいいのでは。私としては、中学校の現状と今後の在り方を最優先してほしい。（西小校区は地域や保護者の意見が強ければ、榛小と統合してもよい。） ・マイナスイメージだけでなく、プラスイメージやこれからの教育の在り方等も伝わるように、委員Bさんのような若い方の視点を大事にしていきたい。 ・説明会の最後の仮に宇陀市全体で1学級30人未満、1学年2～3学級にした場合の資料は、国の基準が一般の方には分かりにくいので、誤解されやすいのでは。 ・やはり自治会関係者と一般保護者の思いは相容れにくいと思った。